

情報を「インテリジェス」にする能力をお持ちですか？

「インテリジェス・オフィサー」であった元外交官と、元特派員で「インテリジェス」問題に詳しい元放送記者との対談集：「インテリジェス 武器なき戦争」を目にした。

武器を使わない戦争とは外交のことであり、「国際舞台の背後では、様々な情報戦が繰り広げられている」といい、国際社会の中で「国家の命運を担う政治指導者が舵を定めるための羅針盤」となるものが「インテリジェス（情報）」であり、そうした国際戦略に「不可欠な武器」であるという。

また、「秘密情報の98%は公開情報を再整理することで得られる」が、「情報をどう分析するかで、各国の情報に差が出てくる」からこそ、外交官等が扱う「『情報』は『インホメーション』ではなく『インテリジェス』なのだ」といい、それ故、「『ジャーナリスト』と『インテリジェス・オフィサー』に違いがあるという。

更に、こうした情報戦略について、過去の国際事件等に生々しく触れながら解説されるので、国際的な報道情報には接しているがインテリジェスには全く疎い自分だけに、「ああ、あの背景はそうだったのか」と感嘆させられ、今の「東京は、極秘情報が集積するインテリジェス都市」であり、「インテリジェス大国は第一級のインテリジェス・オフィサーを日本に送り込んでいる」ということには、背筋が寒くなる。

情報の中には、ある意図（戦略）をもって流されるものもあるから、溢れる「情報をどう分析するか」は、確かに裏を取るインテリジェス・オフィサー的な能力・活動が今後益々重要になるであろうことは、先のニセ・メール問題で国会が混乱したことからも、容易に推測できる。

ある国は、あえて相反する分析結果を具申する機関をわざわざ設けて、ある情報・分析だけに陥らないようにしてるとか。

こうした時に外交面で相反する分析結果を国益を考えてどちらを選択するか、正にそれが政治であり、政治を司る長（大統領、主席、首相、総理大臣、等々）の責務は甚大ということだろう。

話は飛ぶが、この情報過多社会で生きていくには、情報を分析する能力を身につけなくっちゃあ～ね！

ノンクションに興味をもち、また、何事にも斜め見や裏から見がちな我が身は、少しはその素質あるかな?? (^_^;)